

講義科目名称：英文講読Ⅱ

授業コード：1M012

英文科目名称：Advanced English (Reading) II

対象カリキュラム：28年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
杉田 雅子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Reading 1 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 1	杉田
	第2回 Reading 2 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 2	杉田
	第3回 Reading 3 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 3	杉田
	第4回 Reading 4 文献の読み方 大学院入試レベルの英文を読む 4	杉田
	第5回 Reading 5 文献の読み方 留学試験に挑戦 1 IELTSのreading問題	杉田
	第6回 Reading 6 文献の読み方 留学試験に挑戦 2 IELTSのreading問題	杉田
	第7回 Reading 7 文献の読み方 留学試験に挑戦 3 IELTSのreading問題	杉田
	第8回 Reading 8 文献の読み方 留学試験に挑戦 4 TOEFLのreading問題	杉田
	第9回 Reading 9 文献の読み方 留学試験に挑戦 5 TOEFLのreading問題	杉田
	第10回 Reading 10 文献の読み方 留学試験に挑戦 6 TOEFLのreading問題	杉田
	第11回 Reading 11 文献の読み方 留学試験に挑戦 7 TOEFLのreading問題	杉田
	第12回 Reading 12 文献の読み方 留学試験に挑戦 8 TOEICのreading問題	杉田
	第13回 Reading 13 文献の読み方 留学試験に挑戦 9 TOEICのreading問題	杉田
	第14回 Reading 14 文献の読み方 留学試験に挑戦 10 TOEICのreading問題	杉田
	第15回 Reading 15 文献の読み方 留学試験に挑戦 11 TOEICのreading問題	杉田
科目の目的	英語I、II、英語表現、ステップアップ英語I、II、英文講読Iで養成した専門分野の英語に取り組める力の発展。専門用語語彙力の発展。留学試験に対応できるリーディング力の養成。【技能・表現】	
到達目標	テキストの英語構文を正しく理解し、内容を正しく理解することができる。 専門分野の英単語、英語表現を覚える。	
関連科目	英語I、II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語I、II 英文講読I 広義には検査技術に関する科目全般に関連する。	
成績評価方法・基準	毎回の授業での発表（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	わからない単語は調べ、本文を読み、内容を把握しておく。どこがわからないのかを明確にしておくこと。約45分間。	
教科書・参考書	プリント。	
オフィス・アワー	講義の前後、昼休み、4号館8階研究室26	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	高校までの基本英文法は理解しておいてください。	

講義科目名称：臨床検査学総合演習Ⅱ

授業コード：1M073

英文科目名称：Comprehensive Practice in Clinical Testing II

対象カリキュラム：28年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	4単位	必修
単位認定者	担当者		
亀子 光明	他15名		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1・2回 インTRODクシヨN(授業の進め方), 免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	藤田 清貴
	第3・4回 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	小河原 はつ江
	第5・6回 免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	藤田 清貴
	第7・8回 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	小河原 はつ江
	第9・10回 病理組織細胞学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	岡山香里
	第11・12回 病理組織細胞学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	岡山 香里
	第13・14回 遺伝子検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	長田誠
	第15回 遺伝子検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	長田 誠
	第16・17回 生理学の重要ポイント	洞口 貴弘
	第18・19回 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	森田 耕司 (非常勤)
	第20・21回 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	森田耕司 (非常勤)
	第22回 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント(3)	森田 耕司 (非常勤)
	第23・24回 生化学における重要ポイント	木村 鮎子
	第25・26回 精度管理・検査機器総論における最新技術および検査技術の重要ポイント	石垣 宏尚
	第27・28回 輸血検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント	小野川 傑 (非常勤)
	第29・30回 医動物学における最新技術および検査技術の重要ポイント	林 由里子
	第31回 解剖学における重要ポイント	浅見知市郎
	第32回 細胞診断学における重要ポイント	岡山 香里
	第33・34回 臨床化学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	亀子 光明
	第35・36回 臨床化学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	高橋 克典
	第37・38回 公衆衛生学の重要ポイント	岡山 香里
	第39・40回 臨床生理学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	古田島伸雄
	第41・42回 臨床生理学における最新技術および検査技術の重要ポイント(2)	古田島 伸雄
	第43・44回 ウイルス検査学における最新技術および検査技術の重要ポイント	木村 博一
	第45・46回 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイント(1)	高橋 克典

	第47回 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイント (2)	高橋 克典
	第48・49回 病理組織細胞学における最新技術および検査技術の重要ポイント (1)	大河戸 光章 (非常勤)
	第50・51回 病理組織細胞学における最新技術および検査技術の重要ポイント (2)	大河戸 光章 (非常勤)
	第52回 公衆衛生学における重要ポイント	木村 博一
	第53回 臨床生理学における最新技術および検査技術の重要ポイント (3)	古田島 伸雄
	第54回 臨床生理学 (心エコーにおける最新技術および検査技術の重要ポイント)	戸出 浩之 (非常勤)
	第55・56回 医用工学における最新技術および検査技術の重要ポイント	木村 博一
	第57・58回 臨床検査医学総論 (病理学) における重要ポイント (1)	小谷 和彦 (非常勤)
	第59・60回 臨床検査医学総論 (病理学) における重要ポイント (2)	小谷 和彦 (非常勤)
科目の目的	臨床検査学総合演習 I で学んだ臨床病態解析検査学, 生体機能検査学, 検査総合管理学, 病因・生体防御検査学, 生物化学分析検査学各領域の専門科目群について科目相互の横断的理解を十分にするため, さらに3年次後期から4年次前期まで履修した専門科目群について科目相互のつながり, および基本的かつ先進的な内容を含む重要事項を整理・修得する。【技能・表現】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 2. 臨床化学検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 3. 血液検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 4. 遺伝子検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 5. 微生物検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 6. 生理機能検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 7. 機器分析化学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 8. 医動物学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 9. 臨床検査総論学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 10. 輸血検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 11. 病理・細胞検査学における最新技術および検査技術の重要ポイントについて理解できる。 	
関連科目	臨床検査学総合演習 I, 免疫検査学, 感染と免疫, 臨床化学検査学, 血液検査学, 遺伝子検査学, 微生物検査学, 生理機能検査学, 機器分析化学, 医動物学, 臨床検査学総論, 輸血検査学, 病理細胞検査学, 臨床検査医学総論	
成績評価方法・基準	定期試験60%, 模擬試験40%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また, 授業回数数の3分の1以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1~2時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書: なし 参考書: 臨床検査技師国家試験問題注解編集委員会/編: 臨床検査技師国家試験問題注解2020年版 (金原出版) 参考書は各授業科目で使用する。その他, 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。非常勤講師については, 授業終了後に更新室, または講師控室で質問を受ける。当大学担当教員のメールアドレスを下記に示す。 藤田清貴 fujita@paz.ac.jp 亀子光明 kameko@paz.ac.jp 小河原はつ江 ogawara@paz.ac.jp 木村博一 h-kimura@paz.ac.jp 古田島伸雄 kotajima@paz.ac.jp 長田誠 osada@paz.ac.jp 高橋克典 k-takahashi@paz.ac.jp 岡山香里 okayama@paz.ac.jp 木村鮎子 a-kimura@paz.ac.jp 石垣宏尚 ishigaki@paz.ac.jp 洞口貴弘 horaguchi@paz.ac.jp 非常勤講師: 森田耕司, 小野川 傑, 大河戸光章, 戸出浩之, 小谷和彦	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	授業中は携帯電話の電源を切ること。講義予定は調整が必要のため, 予定表を事前に配布する。	

講義科目名称：臨地実習

授業コード：2M097

英文科目名称：Practicums

対象カリキュラム：28年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
単位認定者	担当者		
小河原はつ江			

授業形態	医療機関における臨地実習		担当者
授業計画	第1週	一般検査	
	第2週	血液検査	
	第3週	臨床化学検査	
	第4週	免疫血清検査	
	第5週	臨床微生物検査 遺伝子検査	
	第6週	生理機能検査	
	第7週	輸血検査	
	第8週	病理細胞検査	
科目の目的	講義・実習で学んだ知識・技術を基に、臨床検査を実践するための基礎的能力を養い、臨床検査技師としての責務、倫理観を培うことを目的とする。 ディプロマポリシーにおける【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】を総合的に習得する。		
到達目標	臨床検査の現場を実際に経験し、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を経験し、検体採取から結果報告までの一連の業務の流れを理解する。また、臨床に提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、さらには検査研究の重要性を認識するために、疾患に対して興味を持ち、提供する検査情報から病態解析へのアプローチを身につけ、医学・医療の専門職として医療チームの一員として、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知る。		
関連科目	検査技術学科全必修科目		
成績評価方法・基準	施設実習責任者による実習態度、出席状況などの総合評価50%および検査技術学科における実習評価試験（筆記試験）50%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1～2時間（実習前日の予習とその日の実習の整理・復習のため） 実習ノートを配布するので、実習したことを翌日までにまとめ、実習施設の指導者に提出すること。		
教科書・参考書	特になし 実習前到達目標および実習後到達目標を配布するので、それを参考に実習に臨むこと。		
オフィス・アワー	随時受け付ける。相談・質問がある場合は小河原はつ江（TEL 027-388-0381, E-mail: ogawara@paz.ac.jp）または各専門科目担当者へ事前連絡してから訪問すること。		
国家試験出題基準	【臨床検査技師】Ⅰ-6-A-a～d, Ⅰ-6-B-a, b, Ⅰ-C-a～d 7-D-b, c, d, e Ⅲ-3-A～E, 4-A, 7-A～F, 9-A～C, 10-A～C, 12-A, B, 13-A, 14-A, B 17-A～C, 18-A～D Ⅳ-2-J, K, 3-A, B, 4-C, 5-C, 6-C, 7-C, 8-B, 9-C V-1-A～H, 2-A～Q, 4-A～F Ⅵ-1-A～H, 2-A～Q, 4-A～F, 5-A-a～j, D-b 6-D-e Ⅶ-3-A, B, 4-A～F, 6-A, B 7-A～C <病因・生体防御検査学>1-A～R, 2-A～E, 3-A, B 5-A～K, 6-A, Ⅷ-2-A, B, 3-B, F, G, H, I, 5-A～D, 7-A～D, 8-A～E, 9-B, 10-A		
履修条件・履修上の注意	授業計画の展開で示した内容は実習する病院によって変わることがある。臨地実習は原則として再実習はないので、体調管理に気を付ける。欠席・遅刻・早退があった場合は必ず病院と大学に届け出ること。		

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2M098

英文科目名称：Graduation Studies

対象カリキュラム：28年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	8単位	必修
単位認定者	担当者		
藤田 清貴	亀子 光明, 小河原はつ江	荒木 康久, 木村 博一	古田島伸雄, 長田 誠
	高橋 克典, 岡山 香里	木村 鮎子, 林 由里子	石垣 宏尚

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>研究計画 指導教員と9月中に研究計画を立てること。</p> <p>研究期間 10月から12月までの3ヶ月</p> <p>研究分野-1 指導教員：藤田清貴 免疫検査学, 電気泳動病態解析学</p> <p>研究分野-2 指導教員：小河原はつ江 血液検査学</p> <p>研究分野-3 指導教員：亀子光明 臨床化学検査学</p> <p>研究分野-4 指導教員：荒木康久 生殖補助医療技術学</p> <p>研究分野-5 指導教員：木村博一 微生物検査学、ウイルス検査学</p> <p>研究分野-6 指導教員：古田島伸雄 生理機能検査学, 画像解析検査学</p> <p>研究分野-7 指導教員：長田誠 遺伝子検査学</p> <p>研究分野-8 指導教員：高橋克典 臨床検査学, 組織培養</p> <p>研究分野-9 指導教員：岡山香里 病理・細胞検査学</p> <p>研究分野-10 指導教員：木村鮎子 電気泳動病態解析学</p> <p>研究分野-11 指導教員：林 由里子 血液検査学, 輸血検査学, 医動物学</p> <p>研究分野-12 指導教員：石垣宏尚 臨床検査学, 組織培養</p> <p>研究発表会 1月中に実施予定。</p> <p>卒業論文 1月下旬に提出予定。</p>	
科目の目的	<p>教員の指導の下で卒業研究のテーマを設定し、研究目的や方法などを決め、実際に実験または調査を行い、得られた結果を考察する。これらの過程を通して、創造的な研究を行う能力を養成する。研究指導は研究グループごとに分かれて行い、定期的に研究の進捗状況の報告と、その後の研究計画などをディスカッションして研究を推進していく。詳細な研究記録をもとに、その成果をまとめ、卒業研究発表会にてグループ単位で発表を行う。【知識・理解】，【思考・判断】，【技能・表現】，【関心・意欲】</p>	
到達目標	<p>卒業研究では、学生がそれぞれの指導教員の下で研究課題を選び、それまでに習得した専門知識および技術を生かし、卒業研究論文を完成する。 論文作成の過程において、学生が専門知識を一層深めるとともに自ら実験・考察を行い、研究課題を解決する能力を身につけることを目標とする。</p>	
関連科目	<p>専門科目のすべてと関連する。</p>	
成績評価方法・基準	<p>研究に取り組む姿勢、活動状況、論文の内容、プレゼンテーションの内容などで総合的に評価する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書は特に使用しない。</p>	
オフィス・アワー	<p>個別の相談は各教員が随時対応する。</p>	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を行うこと。